「ど、どどどど・・どーん」と続くと、ニーッと笑みを浮かべて聞いていました。その後、再び「どんどこ　どんどこ　どんどこ　どんどこ　もんちゃんはいそいでいます」のフレーズが続くと、ニコッと笑顔になります。読み終えた後も満足している様子で、しばらくいい表情が続いていました。

ほのかの日常活動紹介

平塚　信恵

リビングにあるシャワー洗髪台の蛇口をひねると、Aさん（横地分類A1）は水の流れ出る音にすぐに気付き、その音源を探るように視線を動かします。また、水圧が次第に「ジャーーーッッ」と強まっていく音や「ジャッ、ジャッ、ジャジャジャッ…」と途切れながら続く水の音をじっと感じている様子があります。中でも、気持ちがぐっと動くのを感じたのは、流れる水の音がなくなった瞬間でした。視線をさっと上方に向けそのままじっと動きを止めています。Aさんにとって意味のある静けさだったのだと感じました。

このことからAさんには、カラコロツリーを使った活動をしました。『カラコロツリー』はツリーの幹を軸にしてらせん状に木片が並び、その上をビー玉が軽やかな音で転がっていく玩具です。ビー玉が下に行くにつれて音程は低く深い音色に変化し、最後は小さく「カタッ」と音をたて下に転がり落ちます。

ビー玉が転がる小気味よい音が聞こえると、満面の笑みで枕から顔を上げ、にこやかな表情で体をよじらせるように動かしました。あっという間にビー玉が下まで来て「カタッ」と音がするともう一度大きく笑いました。音が聞こえた時からにこやかな表情で聞いていましたが、音に対して気持ちが残っていないという印象でした。

「もう一度、転がしますね…」と声をかけた後、少しの間動きを止めてじっとAさんを見ます。Aさんもその静けさを感じながらこちらを気にしているようです。そこでビー玉を転がします。先ほどより早いタイミングで音を捉えると、今度は視線が一カ所に止まりじっとしています。だんだんと深くなっていく音の流れに引き込まれるように耳を傾けます。小さく「カタッ」と音が鳴ってからも、まだ耳を澄ませているようです。

最後にもう1度、ツリーのてっぺんからビー玉を落とします。すぐに音の流れを捉え、その音をなぞるようにじぃっと聞き入ります。その途中でビー玉の動きをせき止め一気に音をなくします。一定のテンポで刻まれていた音の流れがぴたりとなくなった瞬間、全身でそれを感じそのままじっと動きを止めています。音が鳴っている時以上に緊張感のある表情でした。

2回3回と繰り返す中で音の流れを能動的に聞くようになりました。だからこそ、音の流れが途切れた静寂の中で、後に続くであろう音をより注意深く感じとろうとしていたのだと思います。

活動の素材を紹介します

カラコロツリー

ツリーの小さな葉の上にビー玉をコツンと落とすと、幹の周りをカラコロカラコロと回転しながら落ちていきます。音は、はじめは軽く高く、下に行くにつれて低くゆったりとした響きになって、最後にコロンと床面にたどり着きます。

その、流れるようなリズムや音の変化をじっと集中して聞き入る、そんな楽しみ方をしています。

新入職員の紹介

●ほのか　山本みのり

10月1日より3号館ほのかに配属の山本みのりです。この仕事を始めて約2年のひよっこです。知識経験共に少なくご迷惑を掛けることもあるかと思いますが、できる事から丁寧に仕事をしていこうと思います。宜しくお願いします。